

令和 8 年 7 月 23 日
株式会社シーエス・ワンテン
ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社

ディズニージュニア 番組審議会議事録

- ・日時 令和 8 年 6 月 3 日(水)16:00～
- ・開催場所 台風の影響によりオンラインにて開催
- ・参加者 審議委員総数 9 名
出席委員数 8 名
書面参加委員数 1 名

(出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコン ME WEB 編集本部 取締役／編集本部長)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 総務局局次長)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 てい先生 (保育士・ユーチューバー)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 peco (ファッションモデル・タレント)
- 委員 よしひろ まさみち (ライター・編集者)

(書面参加委員名)

- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 常務取締役大阪本社代表)

(衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン)

- 福田 泉 (代表取締役社長)
- 船越 昇 (業務推進本部長)
- 川北 桃子 (編成局長)

(番組供給事業者：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社)

- 小林 信一 (代表取締役社長)
- 小峰 利憲 (取締役)
- 奥野 祥行 (編成 シニアマネージャー
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)
- 佐藤 康平 (編成 マネージャー)

待鳥 雅之（編成 アシスタント・マネージャー）

山本 綾子（編成 スペシャリスト）

戸泉 真佑子（編成 コーディネーター）

塩谷 美佳（編成 スケジューラー）

村田 彩水（編成 スケジューラー）

- ・ 議題
(1) ディズニージュニアの番組編成について
(2) 審議番組『ミッキーマウス クラブハウス プラス』について

・ 議事内容

（以下、＊：委員からの意見・質問、→：ディズニーの説明・回答）

（1）ディズニージュニアの番組編成について

→6月の編成ハイライトは下記の通り：

- ・ 7日（日）12:00～16:30
特別編成「ハッピーバースデー！ Donald Duck」
- ・ 13日（土）17:00～18:30
特別編成「まほうのしまのマジックキャンパーズ スタートスペシャル！」
- ・ 20日（土）及び21日（日）の10:00～13:00
特別編成「ディズニージュニア ちちの日のおはなし」
- ・ 26日（金）10:00～14:00 及び 19:00～23:00
特別編成「スティッチの日 とくべつほうそう！」
- ・ 27日（土）11:00～15:00
特別編成「プリンセスソフィア マジカルフレンズ・サタデー！」

（2）審議番組『ミッキーマウス クラブハウス プラス』について

・ 放送概要：

令和7年7月26日（土）日本初回放送。

約25分×全28話（第1シーズン）。

・ 番組内容：

みんなの大好きなミッキーマウス・クラブハウスが帰ってきた！ミッキー、ミニー、Donald、デイジー、グーフィーの仲良し5人組と、たくさんの仲間たちが、クラブハウスで楽しい時間を過ごしながらか、マウスケツールでいろいろな問題を解決していく、とっても楽しいTVシリーズ。さあ、今日はどんなお楽しみと、どんな新しい問題が登場するかな？

ミッキーたちが困ったときは、君も力を貸してあげてね！

→人気のシリーズが、8年の時を経てパワーアップして登場。

→2006年の放送開始から変わらず、いまでもこのチャンネルの代表作品であり続けている。

→視聴者である子供たちが、登場キャラクターたちと一緒に考えて参加しながら学べるアニメーション作品となっている。

→ディズニーのキャラクターをモチーフにした建物、ガジェット、新しいキャラクターなども登場して、ミッキーの世界を存分に楽しむことができる。

* 8年前にこの番組を見ていたはずだが、前はどのような作品だったかなと思ってしまった。絵的にも、どこがどう変わったのか気になった。

* 初めてミッキーやドナルドの日本語版の声をテレビで聞いた時から、彼らのセリフが聞き取りにくいように思う。他の方はどう感じただろうか。なぜこういう声になったのか、一度聞いてみたいと思った。

* ストーリーはとても楽しかった。内容としてはとても素敵で、遊び心満載で冒険いっばいで、本当に楽しかった。

* ディズニージュニアを代表する作品が帰ってきて、嬉しく感じた。

* 懐かしさも感じるが、新鮮も感じるという番組だった。

* リトルヘルパーが、可愛らしいキャラクター。道具が動き出すというところで、ディズニー作品『ファンタジア』の箒が動くのを思い出した。ディズニーらしい可愛いキャラクターだと思った。

* ダッフィーが登場することは、楽しみな要素がたくさんあり、ディズニーファンにもたまらない番組。

* マウスケダンスを聴いて、リズムが良く、自分も動き出しそうになった。楽しくて、相変わらずの名曲だと感じた。

* ミッキーがテレビの前の子供たちに声掛けをしてくれて、知育的、教育的な要素が自然に番組の中に入っている。

* 「失敗は学んでいる途中、失敗してもいいんだよ」という勇気づけ、しつけない「散らかしたら、片づけるんだよ」のような日常的な行動、「友達が困っていたら、助けるんだよ」といった優しさの姿勢みたいなのが、自然な形で分かりやすく伝えられている。王道で、さすがディズニージュニアの番組だと感じた。

* 子供が大好きなミッキー、ミニー、お馴染みの仲間たちが登場して、ディズニーランドに飛び込んだような楽しさだ。

* 色彩がきれいで、映像の切れも良く、身近な子供たちに是非見せたいと思った。

* クイズ形式の知育（チュートリアル）は、家族と一緒に見てもらえたら楽しいと思う。

- *リトルヘルパーがすごく良いと思った。お手伝い好きのリトルヘルパーだが学んでいる途中だから失敗してしまう部分がすごく大事だ。これを観ている年代の子供たちのお手伝いは、だいたい失敗してしまうはずだ。子供としては一生懸命手伝っているのだが、大人からすると余計な事をされているような、ギャップがあるものだ。その姿をリトルヘルパーが見せてくれている。失敗しても、やろうとすることにちゃんと意味があるということを、観ている子供たちと一緒に観ている保護者に伝えている。
- *この番組は、困り事が起きたらトゥードルズを呼んで、その時に使えるものを選んで、解決していくという流れを繰り返している。この流れを繰り返し見ている子供たちは、困った時に、何がまず必要かをしっかり考えるだろう。一つずつ試していくという問題解決への向き合い方の見本になる。落ち着いて順番に考えて試してみる事の大切さを学べる良い番組だと思った。
- *困りごとが毎回きれいに解決するところは、この番組の良いところだと思うが、実際の生活とはかなり乖離がある。実際に失敗した時は、問題はすぐには解決しない。上手くいかない時間の方が現実的には多いものだが、この番組の中ではそれが伝わらないので、その部分は、親子で観て、親御さんの方から上手くフォローしていくことで、この番組がより活かせると思った。
- *すごく面白い内容だった。
- *8年ぶりで、びっくりした。最初のシリーズから絵のタッチが変わっていないのが、逆に良かった。アニメーションの技術が発達している中で、知育番組でもある本作が、このタッチを貫き、新キャラを投入する流れは、とても良い流れだと思った。
- *日本で人気なダッフィーの投入は、とても素晴らしい。
- *声に関しては、ドナルドの声の山寺さんはずっと変えないでほしいと思った。
- *もともと『ミッキーマウス クラブハウス』の大ファンで、自分の子供が小さい頃から毎日流していて、一緒に見ていた。この番組で自分の子供が数字を理解できるようになり、この番組を通して成長しているのを目の当たりにしているので、最初のクラシックな絵のタッチで、ほぼ変わらず番組が帰ってきた事が嬉しい。
- *リトルヘルパーの失敗している姿が響いた。特に、ロボットなのに完璧ではない姿が新鮮だった。そのリトルヘルパーと一緒に学んでいくというところが、素敵だと思った。
- *リトルヘルパーの失敗を見たミッキー以外のキャラクターのリアルな反応が、嬉しかった。
- *ドナルドの何を言っているかわからないところも、多様性を感じて好きだ。
- *ダッフィーが本作に出てくると聞いてびっくりしたが、どういう風に出てきてくれるのかとても楽しみ。
- *ディズニージュニアで放送されて問題ない良い番組だと思った。
- *ミッキーマウスといった人気で皆が知っているキャラクターが出るのは、観るモチベーションの一つとなると思う。

- * いままでのディズニージュニア番組よりも、教育番組色が強かった。愛着がすでにあるキャラクターだからこそ知育に踏み込んでいける番組で、その強みを存分に発揮していて素晴らしいと思った。
- * 昔遊んでいたコンピューターゲームのような流れがあり、キャラクターと一緒に問題を解決していく所はクラシックで、現在でも効果があるのだろうと思った。一方で、受動的なテレビでやるには少し疑問に思い、没入感を削ぐかもしれないとも感じた。だが、絶対に観てもらえるテレビでやる強さはあるし、影響力を考えると、この部分が無くなる必要はないし、あっても良いと思う。
- * 視聴者への問いかけがある部分は珍しいと思った。昔は結構あったが、最近は、ほぼ無くなってきている。いまの子供たちは、どのように受け止めるのかなと懐かしさを感じる演出だった。
- * 問いかける部分は、昔からのテレビ番組にあって、こういった没入感も必要だと思う。テレビは多様に、人間を人間らしく育てていくものだと感じた。
- * リトルヘルパーは理想。自分も高齢になったら高性能ロボットに介護と話し相手を頼みたいと感じる。
- * この番組は、本来は特殊で完璧であるはずのロボットを救いにいくという、ヒューマニスティックなところを感じた。映画でやってほしいと思った。
- * 昔、「失敗するロボット」がコンセプトのロボットがいた。育ててあげることでお互いの信頼関係が作られていく。リトルヘルパーのように、不完全からのコミュニケーションをとっていく必要があると感じた。
- * リトルヘルパーという名前なのに、名前以上の役割と立ち位置が、すごく興味深く感じた。
- * 第1話の中盤で出てくるトウモロコシ畑が、シチュエーションツールとして機能するのは、まさにアメリカだなと感じた。トウモロコシ畑というのは、自分の背丈以上あって、それが迷いの森のようなシチュエーションになったり、あの世とこの世の境界線になったり、いろんなシチュエーションで活用されている。そういう機能は、日本には絶対作れない。子供番組でも、トウモロコシ畑がツールとして使われるというのは、非常に面白いと感じた。
- ミッキーには元々ウォルト自身が声を当てており、歴代それを受け継いでいる。ドナルドについては、もともと上手くしゃべれないことで自分の意思が伝わらないことにイライラして癪癪をおこす特徴があることから、あえて、若干聞き取りにくい感じになっているところもある。
- 前作の良いところをベースにしながら、ブラッシュアップした番組に仕上げている。本作では様々なキャラクター達のクラブハウスが登場し、物語の幅が出ている。また、トゥードルズにも変化があったり、ミステリーマウスケパルという新しいものが出てき

たり、ワッキーチューブで直ぐに 2 階に上がれることができたり、前作のクラブハウスのお部屋と比べて、パワーアップしている。

→ダッフィーに関しては、14 話目の冒頭に出てきたり、24 話目でミッキーマウスがダッフィーに本を読んであげるシーンにおいて、ピンポイントで出てくる。

→来年の夏には、シーズン 2 が登場する。引き続き、アメリカ本国では新しいエピソードを作っているので、ご期待頂きたい。

・ **審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：**

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和 8 年 6 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・ **審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：**

令和 8 年 7 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上